

国語科における読書生活指導の試み

—選択教科 国語での実践を通して—

寺 本 学

1. はじめに

本校の生徒（中学2年生）の読書生活指導を考えていくにあたって、2000年経済協力開発機構（OECD）生徒の学習到達度調査（PISA）から読書生活に関わる部分をまとめ、日本の15歳の読書生活の傾向を簡単に考察してみよう。

2000年調査は読解リテラシー（読解力）が主要分野であったため、「読解力」の項の「生徒の背景と到達度」によって、読書活動について次のような傾向を見ることができる。

まず、第1点として、「趣味としての読書をしない。」の項目では、OECDの平均頻度が32%に対して日本は55%であるという結果がみられた。ここからは、生涯学習の力を作り、読解力につながっていくはずの読書に向かう姿勢を表す頻度が、主要12か国中最低であるという事実が明らかになった。その傾向は、また、「どうしても読まなければならない時しか、本は読まない。」と答えた生徒が、OECD平均が13%であるのに対して日本は22%と主要12か国中際だって高いことからもうかがえる。

第2に、「本を最後まで読み終えるのは困難だ。」について「とてもよくあてはまる」と答えた生徒は、OECD平均が9%であるのに対して日本は17%と主要12か国中で最も数値は高く、また、「読書は大好きな趣味の一つだ。」についても、「まったくあてはまらない」と答えた生徒の頻度は、OECD平均が28%であるのに対して日本は34%と主要12か国中でドイツに続いて高い。積極的な自分からの働きかけを必要と

し、自分自身の心と対話することになる読書から離れていっている日本の生徒たちの姿が、ここにもはっきりと現れている。

しかし、一方、この調査によって日本の生徒たちの総合読解力（情報の取り出し、解釈、熟考、評価）は世界でもトップレベルにあることが統計的に明らかにされた。この調査での高得点と実生活での読書離れのひずみから、学年を追うに従って無気力になり勉強嫌いになっていく生徒たちの「学びからの逃走」（注1）や自己表現の力のなさ、創造的な思考や発展的な思考の弱さを考えさせられる。

では次に、「読む本の種類や頻度」について、下の表から考えてみよう。

55%が「趣味としての読書をしない」日本の15歳児。対象となった5,300人の読書活動が、雑誌・コミックを週に数回読む頻度の際だった高さ比べ、特にノンフィクション（伝記、ルポルタージュなど）や新聞を読まない頻度が約5割を占める現実には驚かされる。

しかし、「本屋や図書館に行くのは楽しい。」と感じている生徒は主要12か国の中で際だって高く、OECD平均が12%であるのに対して日本は29%もある。それは、本屋や図書館の利用法とも深く関わっているように思われるが、傾向としては好ましく、本屋や図書館へ行き、本を手にとったり、読んだりすることへの興味・関心の高さが表れている。

そんな中で、「みんなでやる、毎日やる、好きな本でよい、ただ読むだけ」の4原則で実践が進められている「朝の10分間読書」がブームを巻き起こし、学校

（ゴシックは参加国中最高の数値という意味である）

	項 目	OECD 平均	日本
雑誌	週に数回読む	33%	52%
コミック（まんが）	週に数回読む	14%	59%
フィクション（小説、物語など）	まったくかほとんど読まない	26%	30%
ノンフィクション（伝記、ルポルタージュなど）	まったくかほとんど読まない	33%	53%
Eメール、ホームページ	まったくかほとんど読まない	33%	41%
新聞	週に数回読む	39%	48%

生活の中での読書活動や読書と子どもの心の関係などについて見直されてきている。その効果から、新教育課程の実施に向けて、取り入れ実践する学校が増え続けているようである。

2002年1月17日には、文部科学省は「確かな学力の向上のための2002アピール」として「学びのすすめ」を発表した。そこには、新しい学習指導要領の全面实施を目前に控え、そのねらいとする「確かな学力」の向上のために、指導に当たっての重点等を明らかにした5つの方策が示されている。

その中でも、「4、学びの機会を充実し、学ぶ習慣を身に付ける」として、学校においては、例えば朝の読書などが、読書本来の効果に加え、児童生徒の集中力を高め、授業への姿勢をつくる上で効果を挙げているとの報告もあるとして、次のように記されている。

- 朝の読書など、始業前学習を推奨・支援する。
- 子どもたちが読書に親しむ機会を充実し、読書の習慣を身に付けるよう、学校図書館図書資料の計画的な整備を図る。

以上のようなことも要因となって、私の中に、「中学生の間にたくさんの本との出会いを経験させたい。そして、そのような機会をたくさんつくっていくことが生徒の読書生活を変革させていくことにつながっていくのではないか。」「特にノンフィクション（伝記、ルポルタージュなど）に焦点を当てた国語科の学習を構想する必要に迫られているのではないか。」という思いがますます強くなってきた。

2. 研究のねらい

本研究は、本校の選択教科国語科において読書指導をどのような内容や方法で設定すればよいのかについて、読書生活指導の立場から実践し、考察しようとするものである。

3. 研究の基盤

1) 本校の選択教科についての考え方

(1) 選択教科でめざす力

本校でも、来年度からの本格実施を前に、全教科において、選択教科の見直しと多様化を図るための共通理解を図った。そのポイントは、次の4点である。

- ① ガイダンス機能の充実により生徒自身が学習の見直しを持ち、計画を立て、実践への意欲

を持つようにすること。（課題意識の高揚）

- ② 自らの手で計画を練り、修正しながら学習を進めていく力を持つ生徒を育てる。

（課題設定能力）（自ら学ぶ力）

- ③ 学習の記録を細かに取り、自らの学習の足跡を残させることにより、学習の途中での教師の支援活動や生徒自身による学習の修正、自己評価の活動を促すようにする。

失敗、挫折についての考察（評価の充実）

- ④ 多様な選択教科学習のパターンを生徒にも示すことにより、選択教科学習の可能性を探り内容の充実を図る。（生徒の多様な個性への対応）

- (2) 国語科における選択教科「国語」でめざすもの
国語科では選択教科について、指導要領には次のように示されている。

選択教科としての「国語」においては、生徒の特性等に応じ多様な学習活動が展開できるよう、第2の内容その他の内容で各学校が定めるものについて、課題学習、表現や理解の能力を補充的に高める学習、発展的な学習などの学習活動を各学校において適切に工夫して取り扱うものとする。

本校でも選択教科「国語」については、今までも実践を重ねてきた。その実践をふまえて、本年考えようとしたのは、課題学習、表現や理解の能力を補充的に高める学習、発展的な学習などをふまえた異なる3つの時数パターンの選択国語である。

2・3年において開設する選択国語を、8時間パターン、17時間パターン、35時間パターンにわけて、そこでどんな国語学習を具体的に展開することができるのか（生徒に提示できるのか）を考えた。

例えば、8時間の学習パターンは、補充的な学習として設定し、その学習は、①選択国語の学習のすすめ方を確認する。（見通しづくり）②わたしの学習設計図を作る。③Aコース 漢字、Bコース 読解、Cコース 文法、3コースに分かれた実践をする。④設計図、学習を振り返る。というように学習過程を大切に学習として進めていきたいと考えている。

ここでは、2年生後期に実施する17時間パターン選択教科「国語」について、実践をもとに考えていくことにする。

2) 選択教科国語科と読書指導について

(1) なぜ 読書指導なのか

「なぜ 読書指導なのか」について、小森茂氏は、「義務教育としての学校教育・国語科において、文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、読むことの基礎・基本を確実に習得するためである。また、全面実施を迎える「学校5日制」の基盤教科としての国語科の目標や役割を十分に果たすためである。」と述べている。

そして、「読書指導のさまざまな展開」をすることは、国語科の教科目標に示された、互いの立場や考えを尊重して、自分の言葉で「伝えあう力」を意図的・計画的に育成することである。具体的には、(自分の考えをもてるように)的確に読みとる能力や読書に親しむ態度を育てるためであり、読むことの基礎・基本の確実な習得をめざすためである。」(注2)とその意義を記している。

「はじめに」でもふれたように、「学びからの逃走」や自己表現の力のなさ、創造的な思考や発展的な思考の弱さを克服する重要な土台作りとして、国語科における読書指導を様々に展開していくべき時代がきたのではないかと考えている。

(2) 指導者の立場

読書指導については、島根国語懇話会の著書「国語科 読書指導の実践」(注3)の中に次のような指摘がある。

「とかくムードで行われがちな読書指導に背骨を通そうというので読書技能も取り上げたが、とらわれてはいけないという反省から態度と習慣の指導こそ読書指導の本命であると再認識して、二年目の研究が行われたと思う。」「読書指導は読者の変革が指導のねらいであるという認識、すなわち読者を育てることであるという認識ができたと思う。」「(単元や読書に必要な能力として)5つの柱である「創造」「主体性」「自主性」「追求性」「教養性」を含む思考過程を考える必要があるようだ。」これは、今から30年以上も前の実践からの指摘であるが、読書指導のねらいの本質を明確に示してくれている。

倉澤栄吉氏は「読書指導というのは、(図書指導より)もっと広い概念であります。それは読書人形成のために行われます。(中略)、ゆえに、読書指導とは実は読者指導であります。読者という主体、人間を育てることです。」(注4)と述べ、「読書」とは生活である。学習である。」(注5)こと、「読書は、生活の枢要な一部である」ことを強く説いている。

筆者もこの考え方に立って、本研究で実践を通して具体的に考察していきたい。

4. 研究仮説

選択教科国語科において伝記による読書単元を設定し、指導過程や展開をさまざまに工夫することにより、生徒の読書についての意欲と意識の向上を図る。

5. 単元「時代をこえて一伝記の人物と出会うー」の構想と実践

1) 教育指導計画と第2学年選択教科国語科の実践

17時間パターン(2年後期,前半の例)(後半も同じ学習を生徒を入れ替えて実施)

(1) 選択学習の初めに

月	単元名・指導項目	目 標	学習内容	時
11	選択学習の初めに ・全体ガイダンス	・選択学習の意義・ねらいを把握することができる。 ・学習に対する心構えを持つことができる。	・選択教科学習の意義・ねらいを確認する。 ・全体のガイダンスを聞いて内容をつかみ、自分の興味・関心にしたがって選択教科を決定する。	1
11	・選択国語学習のすすめ方 ・活動の仕方と準備	・自分の読書生活をふり返り、この学習の見通しを持つことができる。 ・自分の学習計画を作ることができる。	・選択国語の学習のすすめ方を確認する。 ・グループ活動について確認し、自分たちで学習を作っていくことを意識する。 ・わたしの学習設計図を作る。	2



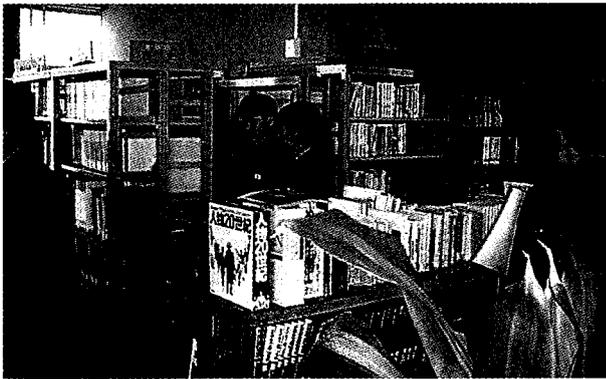
(教師の準備した伝記シリーズ① 写真1)

① 全体ガイダンスと学習の進め方

体育館で、第2学年選択教科についての全体ガイダンスを受けた後、自分の希望を用紙に記入して提出し、第1希望を優先に、第2学年選択教科を決定した。

それぞれの教科ごとに分かれた第1回目の学習では、指導者からこの学習のねらいや方法、進め方などについて具体的なガイダンスをうけ、この学習用に準備した伝記(写真1)を手にとって見ることから学習の第一歩が始まった。

次に(資料1)の用紙を持って図書館に移動し、自分の目で図書館の中の本を調べ、興味・関心のある伝記の人物をチェックする。(写真2)



(図書館で他の伝記を調べる 写真2)

この活動で、ほぼ50人の伝記の人物と出会いのきっかけを作っておくことになる。

② わたしの選択国語学習設計図を作る。

①での準備が整ったら、グループで相談しながら、「わたしの選択国語の設計図」(資料2)をつくる。もちろん、計画なので、変更があってもいいということを前提にして、次の3つの点から見通しを持って学習に臨ませようとしたのである。

1つ目は、今の自分自身の興味・関心がどこにあるのかを書き残しておき、後で自分自身で学習を振り返った時の参考にさせるためである。自分自身で自分を見つめていく、自己評価につながる材料作りである。

資料1
(2年3組 前) 氏名()

まず、この20冊と15冊の伝記を手にとって見てみましょう。

1	世界を変えた人々	興味・関心度合い	1	世界の作家	興味・関心度合い
1	キュリー夫人	✓	1	ビバルディ	✓
2	キング牧師	✓	2	パッサロ	✓
3	マザー・テレサ	✓	3	モーツァルト	✓
4	ツツミ主教	✓	4	ベートーベン	✓
5	ナイチンゲール	✓	5	シューベルト	✓
6	ワレンバーク	✓	6	ショパン	✓
7	シュヴァイツァー	✓	7	チャイコフスキー	✓
8	ブラヒム	✓	8	ドビュッシー	✓
9	ガンジー	✓	9	ドボルザーク	✓
10	パストゥール	✓	10	グリーグ	✓
11	ピーター・スコット	✓	11	バーンスタイン	✓
12	チャップリン	✓	12	ジョン・レノン	✓
13	ダーウィン	✓	13	ボブ・マーリー	✓
14	ヘレン・ケラー	✓	14	エルトン・ジョン	✓
15	ダーテンベルク	✓	15	スティンク	✓
16	エイブラハム・リンカン	✓			
17	ガリレオ・ガリレイ	✓			
18	エリク・ルーズベルト	✓			
19	アインシュタイン	✓			
20	真田義石	✓			

それでは、上の20冊と15冊以外にどんな伝記が図書館にあるのだろうか、自分でも調べてみよう。面白いを見つけたら、それでもいいですよ。

1	図書館で見つけた伝記・人物	興味・関心度合い	1	図書館で見つけた伝記・人物	興味・関心度合い
1	聖母マリア	✓	1	茶式部	✓
2	レオナルド	✓	2	一茶	✓
3	フョードル	✓	3	フスター	✓
4	エミソン	✓	4	関宮林蔵	✓
5	マゼラン	✓	5	平将門	✓
6	青島松陰	✓	6	孔子	✓
7	樋口大祐	✓	7	野口英世	✓
8	清少納言	✓	8	ミレー	✓
9	雪舟	✓	9	弘明	✓
10	芭蕉	✓	10	坪内逍遙	✓

資料2
(2年3組 前) 氏名()

わたしの選択国語の設計図

項目	観点	自分のいまの考えをここに残しておきましょう。
1. 自分だけの心をつめて	・関心 ・意欲 ・態度	「読書が苦手だからと、伝記は面白そうだから。」
2. どのことにこだわりをもっているか	・関心 ・意欲 ・態度	「楽しんで読書をしていきたい。そして、本に「関心」を深めたい。」
3. この学習を進めたいか	・お祝い	「読書が好きになったら、たくさん本を読むのになりたい。あと、本を読むのが早くになりたい。」
学習のテーマを決めよう(わたしと○○) -○○○○○○○○○○○○-		
1	サブテーマ	「わたしとアインシュタイン」 ～相対性理論はどんなものなのかな～
2	サブテーマ	「わたしとガリレオ・ガリレイ」 ～なぜ地動説もついたのかな～
3	サブテーマ	「わたしとフライグ」 ～飛行機がどうして飛ぶの～
4. どういう方法で、そのテーマについて学習を深めていこうか	・方法	○本 ○インターネット
5. 個人でできること、グループでできること	・形態	グループでは、知ったことなどを教え合う。 個人では、本を読んで調べよう。
6. そのテーマについて知ることができること、学んだこと	・基本的な知識、能力	天才物理学者であり、相対性理論を生み出した。また、平和運動や人権を守る運動などに貢献した人。
7. 8回の学習の後、どんなふうに変化したか	・目標	たくさん人のことを知り、本にも親めようになりたい。

2つ目は、学習の方向をつくるためである。「わたしと○○」という大テーマを決めることによって、どんな人物との出会いを計画していくかを方向付け、サブテーマを考えることで、今その人物のどんなところに興味・関心があるのか、その人物をなぜ選んだのかわかるようにしたかったのである。

3つ目は、その人物への学習としての迫り方を考えるためである。学習の方法、個人ですべきこと、グループの力を借りなければならないこと、現時点

での人物の把握の度合い、今後の目当てなどを記入させておこうと考えた。

しかし、この設計図作りでは、いかに見通しを持たせることが難しいかを実感させられた。

選択教科国語を選択した生徒は、前半18人であった。その生徒たちが伝記学習の材料として使うために準備した35冊の伝記に描かれた人物については、指導者がしっかりと内容を把握しておかなければ、生徒に「わたしの選択国語の設計図」をつくらせるために、適切な支援、助言ができないのである。

これは、この伝記学習ばかりでなく、どの学習についてもいえることであり、すべきことなのであるが、そういう指導者の準備がなければ、生徒たちが書くべきことがかけないのだということを、あらためて実感させられた。

(2) 「出会い、紹介」(学習1)

月	単元名・指導項目	目標	学習内容	時
11	「出会い、紹介」(学習1)	・「伝記」(50冊)の中から一人を選び、興味をもって読むことができる。	・50人の「伝記」の中から、1冊を選んで読む。	3
	・「伝記」の50人の中から1人を選ぶ。 ・1人目の人物との出会い。	・2つのねらい(「生き方を考える」「出会ったことばで考える」)をもちながら読むことができる。	・新しく出会ったことば(その人を表すことば、素敵なことば、強く印象に残ったことばなどをメモしながら「伝記」を読む。 ・その人物の少年時代や出会った人に焦点を当てながら読む	3
12	・自分のであった人物を紹介する。(個人による紹介)	・出会った人物について、3つのポイントを押さえながら紹介することができる。	・紹介準備をする。 ・3つのポイント(①その生涯②少年時代③出会い)から、「伝記」の人物を見つめ、まとめる。 ・みんなの前に立って紹介し質問を受ける。	3
	ふりかえり(中間評価) ・学習を振り返る。	・前半の学習を振り返って、自己評価、相互評価をすることができる。	・出会ったことば、その人を表すことばを整理し、まとめる。 ・発表の中で印象に残った人物を紹介してくれた人について評価する。	1



(自分が選んだ伝記を読む 写真3)

① 「伝記」の50人の中から1人を選び、1人目の人物との出会いをつくる。

自分ので出会った人物について、みんなに紹介していくことが前提である。そこで、次のようなポイントを設定し、学習記録(発表用台本)に記入しながら、出会いを深めさせることにした。

- ア、その人を表すいくつかのキーワード
- イ、人物のフルネーム、生没、出身について
- ウ、自分が伝記を読む前に知っていたこと
- エ、少年時代の出来事と印象に残ったことば
- オ、大きく人物を変えた(影響を与えた)出会いと心に響くことば
- カ、生涯をどんなふうにした人物なのかと心に残ることば
- キ、最後に読み終えて感じたこととみんなへのおすすめ度



(教師の準備した伝記シリーズ② 写真4)

② 発表の手引き (資料3)

資料3

選択教科国語 時代をこえて—伝記の人物と出会おう— 平成13年11月21日

人 物 N 2	② ○○○○です。	生 誕 出 身	② 年に生誕地 は ○○○○の国です。
読む前に知っていたこと		読んで思ったこと	
③ わたしは ○○○○ が大好きです。		④ 最後、わたしは、この人と生かして ○○○○ おすめ度 ○○○○です。	

④ は三つに分けて○○○○の生き方を考えよう

⑤ 少年時代は

⑥ 出会い

⑦ 生涯の中で

ことばとの出会い

少年時代

出会い

生涯の中で

このように生きていく

③ 生徒の作成した発表用台本 (資料4)

資料4-①

選択教科国語 時代をこえて—伝記の人物と出会おう— 平成13年11月21日

人 物 N 2	ベートーヴェン	生 誕 出 身	1770 ~ 1827 ドイツのボン
読む前に知っていたこと		読んで思ったこと	
作曲家・難聴 運命 交響曲第9番(合唱付き)		けろいーと書いてかんじよく聞こえていたというのが少なかった。運命や交響曲第9番などといった多くの偉大な曲を残した裏側には、様々な苦悩や悲しみ絶望があり涙に満たされた人生だったのだと思った。	

ベートーヴェン

少年時代

出会い

生涯の中で

ことばとの出会い

少年時代

出会い

生涯の中で

ベートーヴェンをあらわす五つのことば

古典派
作曲家
神童
風変わり
難聴

⑥ ふりかえり（中間評価）と係活動

18人での学習の中で、1人4回は学習に積極的に参加できるようにと係での活動を考えた。次の表に示したように、発表係、カメラ・ビデオ係、質問係（2人の発表で）による係活動である。

発表係は、緊張しながらではあったが、それぞれが自分が選んだ伝記の人物と向き合い、紹介することによって知識の深まりと広がりを見ることができたように思う。また、お互いが同じ立場を経験するので、気持ちを分かり合い、温かい雰囲気の中で発表することができたと感じている。

カメラ・ビデオ係は、仲間が発表したり、聞いて考えたりしている様子を、ファインダーから見つめ、記録として残す係である。自分の発表が終わった安心感の中で、友達の表情を見つめながら、楽しみもある係として機能したように思われる。

質問係は、2人の発表者にその人物について質問する係である。紹介をよく聞いておかないと質問できないため、結構、聞き手に緊張感をもたらし、面白い効果をもたらす係となった。



(カメラ・ビデオ係の様子 写真7)

(係活動の一覧表)

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	氏名
																		1 城代
																		2 佐藤
																		3 若水
																		4 安部
																		5 秋田
																		6 今田
																		7 原田
																		8 又保
																		9 平垣
																		10 谷
																		11 原
																		12 野津
																		13 荒尾
																		14 嶋本
																		15 野々村
																		16 西山
																		17 岡田

(2) 「出会い2, 紹介2」(学習2)

月	単元名・指導項目	目 標	学習内容	時
12	「出会い2, 紹介2」(学習2) ・「伝記」の50人の中から1人を選ぶ。 ・2人目の人物との出会い。	・「伝記」(50冊)の中から次の一人を選び、興味をもって読むことができる。 ・2つのねらい「生き方を考える」「出会ったことばで考える」を意識しながら読むことができる。	・50人の「伝記」の中から、1冊を選んで読む。 ・新しく出会ったことば(その人を表すことば、素敵なことば、強く印象に残ったことばなど)をメモしながら「伝記」を読む。 ・その人物の少年時代や出会った人に焦点を当てながら読む。	3
	・自分のであった人物を紹介する。(グループ紹介)	・出会った人物について、3つのポイントを押さえながら紹介することができる。	・紹介準備をする。 ・3つのポイント(①その生涯②少年時代③出会い)から、「伝記」の人物を見つめ、まとめる。 ・5~6人の中で気楽に紹介しあう。	3
1	学習の終わりに・設計図、学習を振り返る。	・これまでの学習について振り返って、自己評価、相互評価をすることができる。 ・「伝記」を通して、生きることについて考えることができる。	・出会ったことば、その人を表すことばを整理し、まとめる。 ・学習全体を振り返り、自己評価する。 ・グループの中で印象に残った人物を紹介してくれた人について評価する。 ・学習全体を振り返る。	1

① 自分の出会った人物を紹介する。(グループ紹介の様子 写真8, 9, 10, 資料6)

発表も今回は6人ずつの男女混合の小グループでの発表とした。個人発表を経験しているので、発表方法や記録についての不安もなく、少人数での発表でもあり、温かく笑顔の中での気楽な発表ができたと思う。

質問者は一応決めておいたのだが、自然に質問をかわす場面もあり、「紹介タイム」といった方がよ

(資料7)

教師の設計図

平成13年度 2年生選択教科の学習 教師の設計図

平成13年11月7日

学習の大テーマ		時代をこえてー 伝記の人物と出会おうー
学習のねらい	○「伝記」(50冊)の中から一冊を選び、興味をもって読むことができる。 ○優れた、歴史に残る人物との出会いを通して、生きることについて考えることができる。 ○「出会ったことば(その人を表すことば、素敵なことば、強く印象に残ったことばなど)」を意識しながら伝記を読むことができる。	
学習の内容	○50人の「伝記」の中から、1冊を選んで読む。(この学習を、2回繰り返す。) ○新しく出会ったことばをメモしながら「伝記」を読む。 ○3つのポイント(①その生涯②少年時代③出会い)から、「伝記」の人物を見つめ、まとめる。 ○5～6人の中で気楽に紹介しあい、他の人の出会いを楽しんで聞く。	
学習の見通し	予想される生徒の学習のテーマ 「①その生涯②少年時代③出会い」という大きなテーマのなかのどこに焦点を当てて、小テーマを決めても良い。 (例、感動の生涯、二つの出会い、好奇心が作った人物、劣等生の日々……)	時代をこえてー 伝記の人物と出会おうー という大テーマは共通 「①その生涯②少年時代③出会い」という大きなテーマのなかのどこに焦点を当てて、小テーマを決めても良い。 (例、感動の生涯、二つの出会い、好奇心が作った人物、劣等生の日々……)
学習の見通し	生徒の選択の自由度 ・50人の中から誰を選び、出会いを持っても良い。 ・人数も最低2人、後は時間の許す限り、自分のペースで何人でもよい。	
学習展開の予測	予想される生徒の学習活動・追求の場 ・自分の読書生活をふり返り、この学習の見通しを持つ。 ・自分の学習計画を作る。 ・「伝記」(50冊)の中から一人を選び、興味をもって読む。 ・2つのねらい(「生き方を考える」「出会ったことばで考える」)をもちながら読む。 ・出会った人物について、3つのポイントを押さえながら紹介する。	
学習展開の予測	必要なスキル ・学習計画力…①自らの学習課題を設定できる、②見通しを持った計画づくりができる ・情報活用能力…①文献によってその人の情報を2つのねらいから集めることができる ・コミュニケーション能力…②紹介を聞いて、情報を広げることができる ・学習評価力…①自己評価によって改善の方向を見出し、2回目の活動ができる②相互評価によって友達の良いさや発見したことを認めることができる	
学習に必要な材料、場所など	・図書室の伝記 ・それぞれが借りてきた伝記	・教室か図書室 ・学習記録用紙
評価	・学習の記録などを参考にしながら、振り返って、自己評価、相互評価をすることができたか。 ・一番印象的な、出会ったことば、その人物を表すことばをまとめることができたか。 ・「伝記」を読みながら、その人物の生き方や考え方に触れることができたか。	

課程が編成され、今まで以上に発展的な学習に取り組み、深く高度に学べるようになる」とPRしている。

(2) これからの評価の基本的な考え方

「これからの評価の基本的な考え方」として、教育課程審議会答申(2000年12月)では次のように述べている。

「イ これからの評価においては、観点別学習状況の評価を基本とした現行の評価方法を発展させ、目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)を一層重視するとともに、児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを評価するため、個人内評価を工夫することが重要である。」

また、「指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要である。」と指導と評価の一体化を示し、「評価は、学習の結果に対して行うだけでなく、学習指導の過程における評価の工夫を一層進めることが大切である。また、児童生徒にとって評価は、自らの学習状況に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習や発達を促すという意義がある。」としている。

そして、「評価方法の工夫改善」として、児童生

徒の成長の状況を総合的に評価するためにつぎのような工夫をあげている。

- ① 第一に、評価を、学習や指導の改善に役立たせる観点から、総括的な評価のみではなく、分析的な評価、記述的な評価を工夫すること、
- ② 第二に、評価を行う場面としては、学習後のみならず、学習の前や学習の過程における評価を工夫すること、
- ③ 第三に、評価の時期としては、学期末や学年末だけでなく、目的に応じ、単元ごと、時間ごとなどにおける評価を工夫すること、
- ④ 第四に、具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのほか、観察、面接、質問紙、作品、ノート、レポート等を用い、その選択・組合せを工夫すること、

(3) 子どもの可能性を開く評価をめざして

国語科の授業の中で、1学級40人を一斉に評価し指導していくことは困難であり、学習活動も限定される。「自らの学習状況に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習や発達を促す」評価をするためには、日常の学習活動を工夫し、学習指導を通して計画的・継続的に現れる子ども一人一

人の姿を積極的に評価していくことで、子どもの持つ力やよさや伸びを捉えていかなければならないと考え、実践を試みようとしている。そういう意味においても、人数が20人程度となる選択教科の学習は、一人一人の生徒を生かせる場として機能するに違いない。

(4) 単元「時代をこえて—伝記の人物と出会う—」の学習の観点別評価基準と自己評価

本校で考えている選択教科の大きな観点は、1. 学習への興味・関心についての観点（関心・意欲・態度）2. 学習技能や表現（スキル面）に関する観点（技能・表現）3. 学び方に関する観点（知識・

理解）

の3つである。これに照らして、本単元での観点別評価項目を考えた。

学習後のみならず、学習の前や学習の過程における評価は特に1. の項目でとらえようと考えた。また、具体的な観察、作品、学習のワークシート、紹介などの評価法によって、紹介する力・まとめる力などを2. の項目でとらえようとした。そして、分析的な評価、記述的な評価については評価の右に備考欄をもうけ、気づいた時に記入できるようにした。（紙面の都合上ここでは省略した。）

観点別評価基準表

(教科名) 国語	(学習のテーマ) 時代をこえて—伝記の人物と出会う—		観 評	総 評 価
	観 点 別 評 価 項 目	観点のもととなる具体的評価項目		
1. 学習への興味・関心についての観点（関心・意欲・態度）	・学習に意欲をもって積極的に取り組むことができる。	・教室や本、ファイルの準備から後かたづけまで、進んで活動できたか。 ・興味を持って、人物を選び、2冊は読みきることができたか。 ・自分の読書生活を豊かにしようと、積極的に読書活動したり、話を聞いたりすることができたか。		
2. 学習技能や表現（スキル面）に関する観点（技能・表現）	・多様な学習方法を取り入れて課題を追求することができる。	・自分の学習設計図を作り、紹介に向けて計画に沿って読書活動ができたか。 ・少年時代、出会い、生涯の3つのポイントを押さえながら、分かりやすく聞き手に紹介することができたか。 ・いいなあと思う印象的なことば、その人物の言ったことば、その人物を表すことばを手引きにまとめることができたか。		
3. 学び方に関する観点（知識・理解）（思考・判断）	・自分の課題に目標を持ってせまり、自分自身の見方や考え方を深める。	・その人の業績や性格を理解しながら「伝記」を読むことができたか。 ・学習の記録などを参考にしながら、振り返って、自己評価、相互評価をすることができたか。 ・「伝記」を読みながら、（共感したり発見したり、驚いたり疑問に思ったりなどして）その人物の生き方や考え方に触れることができたか。		



(人物の一生を再びたどりながら発表原稿づくり 写真11)



(発表を聞く 写真12)

自己評価 (資料8-①)

生徒番号 2419

氏名 ○○○○○

自分で自分を振り返ってみよう

平成14年1月

(この学習で出会った人物) フルネームで書いておこう		1 鈴木 一郎	2 ゴードン マシュー・サト	3 ホブ・マリー	4
具体的な学習活動や学習場面で考えたり、実践したりしたこと		評価		学習の感想、振り返って	
1. 関心 意欲 態度	・教室や本、ファイルの準備から後かたづけまで、進んで活動できたか。	AA (A) B C		授業が始まる前に本を置いて、国準にいたりすることができたのでよかった。あと、まじりによんでくれて、国準にいたりした。とてもよかった。	
	・興味を持って、人物を選び、2冊は読みきることができたか。	AA (A) B C			
	・自分の読書生活を豊かにしようと、積極的に読書活動したり、話を聞いたりすることができたか。	AA A (B) C			
2. 技能 表現	・自分の学習設計図を作り、紹介に向けて計画に沿って読書活動ができたか。	AA A (B) C		おもしろくまとめたな、たか。自分の中でよくまとめた。まあいい...	
	・少年時代、出会い、生涯の3つのポイントを押さえながら、分かりやすく聞き手に紹介することができたか。	AA A B (C)			
	・いいなあと思う印象的なことば、その人物の言ったことば、その人物を表すことばを手引きにまとめることができたか。	AA A (B) C			
3 知識 理解 思考 判断 力	・その人の業績や性格を理解しながら「伝記」を読むことができたか。	AA A (B) C		著者絶対読まない伝記を言えることかできたのでよかった。富田くんの発表が上手だった。	
	・学習の記録(自分のファイル)などを参考にしながら、学習を振り返って、自己評価や相互評価をすることができたか。	AA A (B) C			
	・「伝記」を読みながら、(共感したり、発見したり、驚いたり、疑問に思ったりなどして) その人物の生き方や考え方に触れることができたか。	AA (A) B C			

この国語の選択で著者ありなしの伝記をまとめたから言えるというには、最初は難しいが、全然集中して読めなかつたけど、少し慣れたら、たいてい1時間と読むページがふえてきた。まとめた方がいいように思った。このへんがほかの選択の国語で成長したところだと思います。

自己評価 (資料8-②)

生徒番号 2111

氏名 ○○○○○

自分で自分を振り返ってみよう

3月11日
平成14年3月

(この学習で出会った人物) フルネームで書いておこう		① ラウル・ダスタフ ワレンバーグ	② エリアール・ズベルト	3	4
具体的な学習活動や学習場面で考えたり、実践したりしたこと		評価		学習の感想、振り返って	
1. 関心 意欲 態度	・教室や本、ファイルの準備から後かたづけまで、進んで活動できたか。	AA (A) B C		私は著者あり読書は好きだが、この選択を通じて本に熱中するおもしろさが学べた。	
	・興味を持って、人物を選び、2冊は読みきることができたか。	AA (A) B C			
	・自分の読書生活を豊かにしようと、積極的に読書活動したり、話を聞いたりすることができたか。	AA (A) B C			
2. 技能 表現	・自分の学習設計図を作り、紹介に向けて計画に沿って読書活動ができたか。	AA (A) B C		できるだけ、聞く人に分かりやすく伝えようと思っていたら、どうも文が多くなってしまったけど、このように理解してもらえたと思う。手引きのこの月はとてもいい。全部、うめることができた。	
	・少年時代、出会い、生涯の3つのポイントを押さえながら、分かりやすく聞き手に紹介することができたか。	AA (A) B C			
	・いいなあと思う印象的なことば、その人物の言ったことば、その人物を表すことばを手引きにまとめることができたか。	AA (A) B C			
3 知識 理解 思考 判断 力	・その人の業績や性格を理解しながら「伝記」を読むことができたか。	AA (A) B C		1冊目の本はその人の人生がよく分かるように2回読むことができて、1層、理解できた。相互評価は、発表の中で聞かれるのは大変だったけど、大層な部分も(その)聞かせることができた。伝記の人物の言葉は(その)読んで大変だったけど、とてもよかった。	
	・学習の記録(自分のファイル)などを参考にしながら、学習を振り返って、自己評価や相互評価をすることができたか。	AA (A) B C			
	・「伝記」を読みながら、(共感したり、発見したり、驚いたり、疑問に思ったりなどして) その人物の生き方や考え方に触れることができたか。	AA (A) B C			

私は、計2冊の伝記を読んで、やはり、本に記された人の人生は、おもしろいものだった。だから、まだ14歳の私の人生の中で、これほどおもしろいと思います。私個人的には、クルーの発表の本が、先が良かった。とても、発表にできる。個人的なもので、いろいろ質問してきてくれた。この学習を通して、本を読むこと、またその人物について深く理解するようになった。家でまた読みたい。

6. 考 察

以上の実践から、次の点について考察していきたい。

- ・本校選択教科国語科における読書指導の意義について
- ・選択教科国語科でのノンフィクション（伝記）を中心とした読書指導単元の内容や方法について

「はじめに」で述べたように、「中学生の間にたくさんの本との出会いを経験させたい。そして、そのような機会をたくさんつくっていくことが生徒の読書生活を変革させていくことにつながっていくのではないか。」「特にノンフィクション（伝記、ルポルタージュなど）に焦点を当てた国語科の学習を構想する必要に迫られているのではないか。」という思いから、この実践は生まれてきた。本年、2年生での実践を終えて、生徒へのアンケートと自己評価を中心に考察していきたい。

1) 17時間選択というの時間長さについて

（前半後半2回の実践アンケートから）（回答34名）

適当 21 短い 2 長い 11

34人の中11人の生徒が「長い学習であった。」と感じている。これは、読書という活動が、地道に自分から積極的に働きかけなければならぬ活動であることと、この単元が「本を読んでまとめて発表する」という「読む」「書く」「話す・聞く」の総合的な力を必要とする学習として構成されていたからでもあると考える。興味・関心の持続をいかにしていくかが、今後の学習の課題でもある。

2) 学習内容や方法について

① プラス兆候1「読むことから生まれるもの」

- ・久しぶりに本を読む時間をもつことができてよかった。



（自己評価をしているところ 写真13）

- ・読書する時間ができてよかった。静かだったので集中することができた。（2）
- ・本を読む楽しさも知ることができた。たくさんの人（伝記の人物）に出会うことができた。（2）
- ・本というのはなかなか読まない人でも伝記を読み始めると必ず集中してしまうのでいいんじゃないかなあとと思います。（1）
- ・最近読んでいなかった伝記を2冊読むことができたし、他の人がまとめた内容でその人物を知ることができてよかったと思います。（4）
- ・私は「本を読むだけ」と前半の人から聞いて内心ちょっとガッカリしたけど、読んだりして時がたつごとに本を読むことのすばらしさを実感しました。私はまだ14歳だから人の生き方をあまり知りません。こうしてたくさんの人々の生き方をみていくのも大切だとわかりました。（1）

中学生自身の心の中には、興味が湧けば本を読みたいという気持ちはある。それを阻害しているのは、読書時間のなさであろう。では、読書をする時間をどう生み出せばよいのかということになる。その手段の一つが、「朝の10分間読書」であり、この選択国語の学習の時間であるのではないだろうか。無理矢理にでも設定された時間、一つの型を持った時間の大切さを感じさせられる。

まず、「久しぶりに本を読む時間をもつ」。そして、そこから「読み始めると必ず集中してしまう」体験が生まれ、「読んだりして時がたつごとに本を読むことのすばらしさを実感しました。」という心が育ってくる。アンケートからは、こんな中学生の実感が見えてくる。

② プラス兆候2「ノンフィクション（伝記）にふれて」

- ・いろいろな人たちの生涯がわかったので、よかったと思う。
- ・本からその人物を調べることがとても楽しいとは思わなかったが、いい経験になった。
- ・たくさんの偉人について知ることができたし、その人の偉大な仕事も見つめることができたのでよかったです。また、自分で紹介することで、さらに知ることができたようで楽しかったです。
- ・今まで知らなかった人物や歴史のいろいろな事件との関わりが見つけられて面白かったです。（3）
- ・いろいろな本を読んで、その人のことを調べたり

してとても役に立つと思う(1)

- ・今まで生きていた人、生きてきた人がどんなことをしたのか、伝記によって知れてよかったです。僕はグループ発表の方が緊張しなくてよかったです。(3)
- ・伝記を読んでその発見のもととなった原点や陰で支えてくれた人が載っていて伝記に残った人物と周りの人の環境があったからその人が輝いたと思います。(1)
- ・いろいろな人たちのこと、苦悩がわかった。すごいと思う。
- ・普段読まない伝記などを読むことができたのでよかったです。(3) いろんな人の生き様のようなものにふれることができて、自分の中にもいろいろと吸収できるものがあったと思います。次の学年でもし国語なら、もっともっといろんな人の話を読んでみたいです。

宮沢賢治、野口英世の母、ヘレンケラー、アンネ・フランクなど、以前は教科書でふれていた人物が次々と教科書から姿を消していく。OECD生徒の学習到達度調査によるノンフィクション(伝記など)を読まない頻度が約5割を占める現実の中で、本校の生徒たちも読書生活の中で伝記にふれるということは少ないはずである。

伝記を読むことによって、「いろいろな人たちの生涯がわかる」、そして、「歴史のいろいろな事件との関わりが見つけ」、「陰で支えてくれた人」の存在を知り、みんなに紹介することで、さらにその人物に近づくことができたように思われる。

③ プラス兆候3「学習の進め方」

- ・久しぶりに伝記が読めてよかったです。みんなで発表とかして充実していた。この学習があったので、伝記を読もうと思った。
- ・本を読むだけで終わるかと思っていただけ、感想を書いたり、発表をしたりしたので驚きました。でも楽しかったです。
- ・伝記を読み、人物についてまとめ、発表することを2回やったが、普段は行わない読書を多くでき、それにより文章から読みとる力がついた。
- ・発表はとても緊張し失敗してしまいましたが、本を読んだりすることはとても面白く、かなり楽しくやっていたと思い、国語を選択してよかったです。(1)
- ・本を読み、みんなで紹介しあう。本を読む機会が



(毎回の学習の様子 写真14)

少なかったので、これを機にまたいろいろな本を読んでいきたい。読解力がついた。(1)

- ・家でも本を読むようになったので、この選択の成果が出たと思います。(1)

伝記を読み、「人物についてまとめ」、「感想を書いたり」することによって、まず、自分の中でその人物をつかむ。その上で、「発表をしたり」「紹介しあったり」することによって、自分だけの世界で終わらせるのではなく、お互いに情報や感動を伝えあい、知り合うことができるようになる。

このような学習を通して、「家でも本を読むようになったので、この選択の成果が出たと思います。」とアンケートに記入してくれた生徒がいたことが収穫であった。

④ マイナス兆候

- ・本を読み、個人発表が難しかった
- ・ずっと読むだけがつらかった(1)
- ・読み続けるのがだるかった(1)
- ・ワンパターンで、もうちょっと工夫してほしい。
- ・本を読んでまとめて発表する、同じことの繰り返しで非常につまらなかった。

少数ではあるが、この学習に意欲を欠く生徒の声があがってきた。このような生徒に対しては、個別の細かな指導が必要だったと反省させられる。指導者の準備不足である。

3) 成長したところ

どんな力がついたと感じているか



(最後の時間に自分の読んだ人物を簡単に紹介している場面 写真15)

- ・読書の力、本を読む力（6）
- ・書き取る力（2）
- ・本を読むスピード
- ・本の内容をきちんと理解する力（2）。
- ・本を読むときの視点が成長した
- ・読む力と本の中での要点をつかむことができるようになった。
- ・物事を考える力
- ・いろいろなことを想像したり、考えたりして読む力
- ・伝記に出てきた人物を知ろうとし、考える力
- ・調べる力
- ・調べたことを発表したり公表したりする力

生徒の考えた力で興味を引かれるのは、この読書指導を通して「視点の成長」や「考える力」が大切であったことに気づいているところである。生涯学習の力を作り、読解力につながっていくはずの読書とはじめに記したが、まさに、その力「考える力」が必要とされた学習であると生徒たちは感じてくれたようである。

7. まとめと今後の課題

「この国語の選択で普段触りもしない伝記をまとめながら読むということは、最初は難しくて全然集中して読めなかったけど、少し慣れてくると、だいたい1時間に読むページがふえてきたし、まとめもいねいに行けるようになったと思います。この辺が、僕が選択の国語で成長したとこだと思います。(S男)」

「本当に最近わたしは本を読んでいなかったの
で、読めたということが一番良いことでした。い
ろんな人を知るにはとても良いことだし、大切な
ことだと思うので、これからも読んでいきたいと
思います。わたしはピアノを習っているの、作
曲家の人生を知れたら、その人の曲を弾く時に思
い出せるなあ……と思いました。あつうの小説と
かを読むのが面倒な時は、伝記を読もうと思いま
す。(O子)」

上の自己評価の中での感想から、二人とも自分自身
の心の成長を見つめる姿がそこにある。S男は、継続
して本に接していくことが日常には見られなかった生
徒であるが、この学習を通して多少なりとも自分の生
活の中に読書を取り込もうとしている姿が感じられ
る。

また、O子の場合には、読もうと思う気持ちがあっ
ても読めない日々の生活の中で、この選択国語の時間
の中でゆったりと読めたということが一番良いことと
とらえている。そして、伝記に近い存在としてO子
の中に位置づけられたことが最後の一文に表現されて
いるようにも思われる。

大村はま氏は、「読書生活の指導」(注6)の中で
「『読書生活の記録』に『読んだ本』というところがそ
の前にあるのですけれど、『読んだ本』の欄はなか
なか埋まりません。けれど読みたい本はふえる、これ
もやはり人生ではないか。読んだ本がどんどんふえる
なんてことはあまりないので、読みたい本のほうを見
ながらため息をついて、たまに読み上がった本を、喜
んで『読んだ本』というところに書きます。前に読ん
だ本からひと月もたった、ひと月ならいいほうでふた
月もたった、そんなこともあると思います。そんな時に
心の中に、もっと読まなくちゃいけないというような
気持ち、読みたい本がいっぱいあるのにどうして時間
を作るのがへたなんだろう、そんなことを考えたりす
る、それもたいせつな読書生活だと思います。そう
やって読む時間の乏しさや、読むことの足りなさを心
から嘆いている、そういう心が読書を慕う心なんだと
いうふうに思うのです。」と述べている。

今回の「時代をこえて—伝記の人物と出会おう—」
の単元を終えてのこの二人の感想からは、「態度と習
慣の指導こそ読書指導の本命であり、読書指導は読者
の変革が指導のねらい」であるという読書指導の本質
を考えさせ、感じさせてもらえたように思う。

また、この実践をとおして

- ・本校選択教科国語科における読書指導の意義について
- ・選択教科国語科でのノンフィクション（伝記）を中心とした読書指導単元の内容や方法についてを多少考察してみることはできたが、必修国語の中での読書単元をどのように組み合わせて実施していけばより効果的なのか、また、約5割の生徒が読もうとしていない新聞を活用した読書単元をどう開発していくかなど、今後の課題として追求していきたい。

引用文献・参考文献一覧

- (注1) 出典 佐藤学 (2001.10). 『学力を問い直すー学びのカリキュラムー』 東京：岩波書店 岩波ブックレット NO,548 P24
- (注2) 出典 出典 小森茂 (2001). 「月刊国語教育研究 特集 全面実施を迎える国語科の読書指導のさまざまな展開」 東京：日本国語教育学会編 2001.9月号 P4,5
- (注3) 出典 島根国語懇話会 (1972) 「国語科 読書指導の実践ー読解から読書へー」 東京：新光閣書店 P213~214, 219
- (注4) 出典 倉澤栄吉 (1989.10) 「倉澤栄吉国語教育全集 12巻「国語教育講義」」 東京：角川書店 P38
- (注5) 出典 倉澤栄吉 (2001.4) 「光村ライブラリー〔通信〕②「読書・生活・学習」」 光村図書出版株式会社
- (注6) 出典 大村はま (1984.6) 「大村はま国語教室 第七巻「読書生活の指導」」 東京：筑摩書房 P13, P14
- 参考図書 国立教育政策研究所編 (2002,2). 『生きるための知識と技能 OECD 生徒の学習到達度調査』 東京：ぎょうせい P78~P92
- 参考図書 社説「読書感想文ー本好きの子どもを育てたい」 毎日新聞 (2002,2,8).
- 参考図書 林 公 (1997,5), 「朝の読書 実践ガイドブックー日10分で本が好きになるー」
- 参考図書 島根大学教育学部附属中学校 研究紀要第36号 (1995) 「国語科における読書生活指導のあり方を求めて」 永島典男

(てらもと まなぶ/teragaku@edu.shimane-u.ac.jp)